

県南保健所感染症情報

令和7年 第 50 週

令和7年12月8日 ～ 令和7年12月14日

【発行元】長崎県県南保健所 地域保健課 TEL:0957-62-3289

◇◇定点把握の対象となる5類感染症 発生状況◇◇ （定点当たり患者数）

定 点	疾 病 名	週別 発生状況						国・県・県南 発生状況						基準値		
		県南保健所						第 50 週						警報レベル		注 意 報 レ ベル
		48 週		49 週		50 週		全国		長崎県		県南保健所		開始	終息	
	インフルエンザ定点	43.00	警報	47.20	警報	56.40	警報	36.96	警報	60.00	警報	56.40	警報	30	10	10
	COVID-19	1.40		1.00		1.00		1.21		0.51		1.00				
	急性呼吸器感染症 (ARI)	68.00		69.40		72.80		80.96		104.63		72.80				
小 児 科 定 点	RSウイルス感染症	0.00		0.67		0.00		0.58		0.00		0.00				
	咽頭結膜熱	0.33		0.67		1.33		0.30		0.48		1.33		3	1	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.33	警報	7.67	警報	7.67	警報	2.75		1.81		7.67	警報	8	4	
	感染性胃腸炎	0.00		0.00		0.00		4.73		3.03		0.00		20	12	
	水痘	0.33		0.00		0.00		0.38		0.23		0.00		2	1	1
	手足口病	0.33		0.00		0.00		0.07		0.16		0.00		5	2	
	伝染性紅斑 (リンゴ病)	1.00		0.67		2.00	警報	0.58		1.74	警報	2.00	警報	2	1	
	突発性発しん	0.33		0.33		0.67		0.21		0.39		0.67				
	ヘルパンギーナ	0.00		0.00		0.00		0.02		0.06		0.00		6	2	
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	0.00		0.00		0.00		0.03		0.03		0.00		6	2	3
眼 科 定 点	急性出血性結膜炎	0.00		0.00		0.00		0.01		0.13		0.00		1	0.1	
	流行性角結膜炎	8.00	警報	5.00	警報	5.00	警報	0.65		1.25		5.00	警報	8	4	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎	0.00		0.00		0.00		0.01		0.08		0.00				
	無菌性髄膜炎	0.00		0.00		0.00		0.03		0.08		0.00				
	マイコプラズマ肺炎	1.00		0.00		1.00		0.85		0.67		1.00				
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.00		0.00		0.00		0.01		0.00		0.00				
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスであるものに限る)	0.00		0.00		0.00		0.01		0.00		0.00				

◇◇全数把握対象感染症 発生状況◇◇ ※報告日掲載（県作成速報:診断日掲載）

一類感染症	報告なし
二類感染症	【第50週】 結核 無症状病原体保有者1名(20代・女性)
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	【第50週】 破傷風 患者1名(70代・男性)

◇◇トピックス・季節情報◇◇

☆A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けましょう。

管内においては、警報レベルの報告が続いています。本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆破傷風の届出がありました。

破傷風は、破傷風菌がうつることによってかかり、口や手足のしびれがおこる病気です。治療が遅れると死亡することがあります。感染症法では5類感染症に分類されています。

感染経路としては、けがをしたときに傷口から破傷風菌が体の中に入ります。破傷風菌は、世界中の土のなかに存在します。特に、動物の糞便で汚染された土壌が危険です。

症状としては、感染して3日から3週間からの症状のない期間があった後、口を開けにくい、首筋が張る、体が痛いなどの症状があらわれます。その後、体のしびれや痛みが体全体に広がり、全身を弓なりに反らせる姿勢や呼吸困難が現れたのちに死亡します。

発病した方には、治療のための血清や抗菌剤を投与します。傷口の治療や呼吸をしやすくするための治療が行われます。

予防としては、予防接種が最も有効です。正しい方法で接種を行うと免疫が10年間持続します。前回の接種後10年をすぎた人には追加接種をお勧めします。犬などの動物にかまれたときは、狂犬病ワクチンと破傷風ワクチンが必要です。旅行中にケガをしたときにも破傷風ワクチンが必要になることがありますので、早めに医師に相談して下さい。